

令和8年4月1日

令和8年度 八潮学園学校経営方針

校長 夏井 真一

1 義務教育学校としての八潮学園の現状と基本的な考え方

本学園は、義務教育学校の特色を生かした一貫教育を実践するとともに、保幼小連携と一貫教育を接続した教育を推進する。また、品川コミュニティ・スクールとして、学校と家庭・地域が一体となって持続性を保ちながら目指す児童生徒像を共有し、各々の役割を果たしながら教育活動の改善と健全育成に取り組む。

さらに、教育課程編成における中長期プランは、以下に示す「教育活動」「教育経営」「地域支援」の3つからなる。このプランの具現化を図ることにより、学校全体の教育活動を活性化させる。

<教育活動>

- ・義務教育学校の特色を生かした一貫教育
- ・前期課程からの教科担任制の拡充と学年団担任制の導入による複数教員での指導体制
- ・保幼小連携と一貫教育を円滑に接続した15年間の教育

<教育経営>

- ・複数教員での組織体制
- ・主体的・創造的な働き方改革の推進
- ・学校DX推進による教育活動の充実

<地域支援>

- ・品川コミュニティ・スクールの制度を活用した八潮地域と共にある学校
- ・学校支援地域本部主催による教育活動
- ・保護者・地域の人材を活用した体験的学習

特に、今年度も「区の防災教育重点校」として、全学年を挙げて防災教育の一層の推進を図る。また、「多様性理解・多文化共生の実現に向けた取組」として、元デフサッカー選手による授業やホッケー教室など、パラスポーツ体験や講演を実施する。今後も共生社会の実現に向け、近隣の私立ろう学校である明晴学園との手話教室、児童生徒間交流、そして、品川総合福祉センターと連携した障害者理解、福祉、人権など心を育む教育活動を進めていく。

さらに、本校の中長期プランが目指す2030年はSDGs (Sustainable Development Goals) の実現を目指す年であり、子どもたちの未来が今までとは異なり、変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑性 (Complexity)、曖昧性 (Ambiguity) に

満ちた、将来の予測が困難なVUCAの時代になる。その中で、「品川区教育振興基本計画『品川区教育ビジョン』」を基本理念に、次世代の日本や地域を支える人材を育てるという使命を担い、創意工夫を生かした教育課程を編成する。

そして、本校の教育活動全体の基盤となる行動指針8C（やしお）に基づき、①「変化（Change）」を求め、そこで何かを生み出すために②「挑戦（Challenge）」する精神、③「継続する（Continue）」ぶれない心・折れない心を持ち、④「創造（Create）」創意工夫、豊かな発想、豊かな感受性を活かし、⑤何事にも自分自身に「自信（Confidence）」をもって、⑥「思いやる心・考え抜く力（Consider）」を磨き、⑦実践的なコミュニケーション能力を培い「協働（Collaborate）」し、⑧「地域・社会に貢献（Contribution）」する。そして、新たな自分を創造「グローバル人材育成（cosmopolitan）」をしていく。

本学園の教育は、「自らを成長させるために挑戦することを怠らず、常に信頼関係をもって協働していく。また、困難な状況においても諦めることなく立ち向かうことのできる強い心を育む」ことを本質とする。そして、「地域・社会貢献を意識し、変化を自ら求め、継続して挑戦し、規範意識をもって協働していくこと」。この8C（やしお）こそが、本校の教育活動全体の基盤となる行動指針である。さらに、2040年以降の社会を見据え、多様で変化の激しいSociety5.0時代を生き抜くために、必要な資質・能力の育成をめざした「一貫教育」を推進し、自他共の「ウェルビーイング」の向上を基本に「品川コミュニティ・スクール」の基盤を形成し、生徒、保護者、地域社会の期待に応えていく。

2 教育目標と経営方針

(1) 教育目標

「夢と力を育む八潮学園」を標榜し、以下の児童生徒像の実現を目指す。

○ 知力のある人 ○ 徳力のある人 ○ 体力のある人

1年生から4年生は、 ○よく考える子 ○心やさしい子 ○明るく元気な子

5年生から9年生は、 ○自ら学び創造力のある児童・生徒
○思いやりと規範意識をもつ児童生徒
○健康でたくましい児童生徒

教育目標を達成するために目指す学校像は、「児童生徒を主語にした学び舎」とする

- 自ら考え、進んで行動できる学校
- 自らの成長を実感できる学校
- 家庭や地域と共に歩める学校
- 教師と共に生き生きと活動できる学校

(2) 学年のまとめりごとの指導目標

ア 第1学年から第4学年

- 「チャイム着席」「あいさつ」「忘れ物をしない」「人の話をしっかり聞く」「一人一台端末の活用」など、基礎・基本の学力を身に付けさせる上で必要な学習規律を継続的に指導し、その定着を図る。
- 繰り返して学習することの大切さを理解させ、「読み」「書き」「計算」の基礎基本を身に付けさせる。
- 集団生活を送るために必要な基本的生活習慣および自主的・計画的に学習に取り組む家庭学習を日常生活の中で繰り返し指導する。
- 委員会活動や1～4学年縦割り集会等の取組を通して、リーダー性を伸長する。
- 人の話をきちんと聞く態度や姿勢を身に付けさせる。
- 健全な心と体をつくるために、体を動かすことの楽しさや喜びを身に付けさせる。

イ 第5学年から第6学年

- 基礎・基本の学力を定着させるとともに、自らの「夢」や希望を通して、目標を設定し、実現するために自らの「力」を伸ばしていく態度を身に付けさせる。
- 主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。
- 日々の活動を振り返る機会を通して、一人一台端末を活用して情報を収集・整理・分析し、自ら判断して表現する態度を身に付けさせる。
- 自ら良好な人間関係が築けるよう、人の話をきちんと聞き、自分の考えを伝えることができる力を身に付けさせる。
- 学校や地域の様々な活動を通して、主体性・社会性と人間性を伸長する。
- 健全な心と体をつくるために、目標をもって運動することの大切さを身に付けさせる。

ウ 第8学年および第9学年

- 基礎・基本の学力について、自ら課題を把握し、自律的な学習に取り組むことを通して、自立した学習者としての態度を身に付けさせる。
- 進路決定に向け、基礎基本の定着を図り、より学力を伸ばすための思考力や判断力、表現力などを身に付けさせる。
- 学校経営に参画する機会、地域・社会に積極的に関わり、改善していくことを通して、地域・社会貢献していく態度を身に付けさせる。
- 不確実な時代にあっても、持続可能な社会を創っていく視点を持ち、探究的に学習を進めていく態度を身に付けるとともに、自らの力で進路を切り拓くことができるよう、資質・能力を伸長する。
- コミュニケーション能力は、他者と互いに理解し合うことであることを認識するとともに、他者と協働して問題解決を図ることができる協働的リーダーシップを身に付けさせる。

- 健全な心と体をつくるために、主体的に健康管理や体力増進に努めるとともに、自分の命を大切にすゝる気持ちを醸成する。

(3) 目標を達成するための方針

- ア 安心・安全な学園の実現を目指し、発達段階に応じ、組織的な指導体制を確立する。そのために、学園全体、第1学年―第4学年、第5学年―第7学年、第8学年および第9学年、各ブロックのまとめり、各学年の発達段階を捉えて、指導方法を工夫する。
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、組織的かつ計画的にカリキュラム・マネジメントを進めていく。そのため、異学年連携の取組を基盤に、幼保・義務教育・高大と連携を進めるとともに、社会教育、家庭教育と連携し、より一層教育活動が円滑に行われるよう工夫する。
- ウ 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めるために、第1学年―第6学年は、教科担任制の拡充と学年団担任制（1・2年団、3・4年団、5・6年団）を導入する。前期課程から教科担任制を実施することで、働き方改革の推進、教科指導の専門性の向上を図るとともに、指導の均等化により、全ての児童生徒に対して、充実した教育を保障していく。学年団担任制については、教師同士が連携することで、学年が抱える課題や多様な教育ニーズに応えることができる。児童生徒や保護者にとっても、相談しやすい教員と話すことで、安心・安定した学校生活を過ごすことができる。このように、教師が互いに学び合い、義務教育9年間で児童生徒を育てるという発想をもち、一体となって日々の教育活動に挑んでいく。
- エ 教育DXを推進し、副校長、主幹教諭、主任教諭、教諭など、職層研修を行い、企画会、生活指導部会、職員連絡会の役割を明確にし、各分掌による提案と意思決定の手続きを、副校長が常に確認して、学校経営を進める。
- オ 児童生徒が、一人1台端末を文房具として日常的に使用できるように条件を整えていく。個別最適な学び、協働的な学びを促進するため、より一層、開かれた学びを展開できるようハイブリット教室の整備を進める。
- カ 自らの体力を向上させるために、ワンミニッツエクササイズを定着させ、品川スポーツトライアル制度を活用する。また、健康教育の柱として、給食指導において食育を推進し、歯磨き習慣の確立を目指す。
- キ すべての児童生徒にとって教育効果があるユニバーサル・デザインの学校づくりを進める。また、特別支援教室を有効活用するとともに通常学級と特別支援学級との日常的な交流を進める。
- ク 八潮学園市民科一貫プランとして、全学年を挙げて、地域と連携した防災教育を推進する。八潮地区防災協議会による、地域に特化した講演、品川総合福祉センターによる災害時での車イス利用の実技体験、八潮消防署による消防と防災の授

業などを学年ごとに行う。また、防災教育重点校として、品川区防災課と連携した「しながわ防災・ジュニアプロジェクト」の公開授業も実施する。更に、コミュニティ・スクールDAYでは、校区教育協働委員、PTA、教員、児童生徒代表者が一堂に会し、「災害時の行動」について熟議を行う。「高齢化が進む八潮地区」の中で、児童・生徒は災害時における主戦力として期待される存在に育つよう、八潮地域全体に活動の場を広げていく。

- ケ 「多様性理解・多文化共生の実現に向けた取組」では、区の重点校として、デフサッカー選手による授業やホッケー教室など、パラスポーツ体験や講演を実施する。また、近隣の私立ろう学校である明晴学園との手話教室、児童生徒間交流、そして、品川総合福祉センターと連携した障害者理解、福祉教育など、共生社会の実現、ウェルビーイング推進に向けた教育活動を展開していく。
- コ 第1学年からの英語を活用する実践的なコミュニケーションの機会を積極的に創出し、コミュニケーションの基盤をつくる。区の独自カリキュラムに基づいた英語教育を推進する。
- サ 教師自ら、日頃から教育活動の充実を目指し、人間性や創造性をさらに高め、自律した教育者となり、発展的な義務教育学校、品川コミュニティ・スクールの在り方を探究していく。
- シ 校務は教育的視点と経営的視点の両面からの効果を考え、効率的・組織的・実働的に取り組む。
- ス 算数・数学「八潮オリジナル問題集」（1～9年生、都立一般受験攻略）が完成したので、全児童生徒に配布する。日々の学習計画を明確にして、朝の学習タイム・授業・宿題・計算コンテスト・放課後学習など9年間使用していく。そして、教員一人一人が年間指導計画に基づき、基礎学力の定着を確実に身に付けさせるための授業を展開する。また、児童生徒の家庭学習時間の定着や品川コミュニティ・スクールの制度を活用した放課後学習など個に応じた学習指導の充実を図る。
- セ 問題行動やいじめのない安心、安全な学校となるよう、発達支援的な生活指導や先を見通した課題予防的な生活指導を行うとともに、問題行動やいじめ、不登校が発生した場合には、解決に向け迅速かつ組織的な対応を行う。
- ソ 義務教育学校としての組織と環境を生かした特色ある教育活動を実現するために、学校支援地域本部と連携して、社会に開かれた学校運営を行う。
- タ 児童生徒にとって満足感や達成感、充実感の得られる学校行事、児童・生徒会活動、クラブ・部活動にする。
- チ 通常学級と特別支援学級との交流および共同学習を通して、互いを尊重する気持ちを醸成するとともに、協働して学習に取り組む姿勢を養う。
- ツ 校内での異学年交流や関係の保幼・小・中・高との交流を意図的、計画的に行い、互いに理解し合うコミュニケーション能力を身に付けさせる。